認知症の祖母と共に過ごした日々を振り返る「介護記」
【写真は、おばあさんと僕、自然運動公園で（1979年）】
塩田吉之（しおたよしゆき） クローバー・サービス職員

そばにいて観察からはじめる

本気で祖母の認知症と向き合う決意をしたが、何をどうしたらいいのかもわからず、とりあえずそばにいて、日頃の様子を観察することにした。

朝起きて、トイレで用を済ませ、顔を洗い、湯沸かしポットでお茶を入れ、仏さんを拝む。そして冷蔵庫からおかずや漬物を出してきて、炊飯器からご飯をよそい、食べ始める。大体決まった行動パターンだ。父は朝食にパンとコーヒー、テレビで朝の情報番組をはしごする。チャンネル権は父で、6チャンネルの朝のローカルニュース番組を見た後は、NHK の朝ドラ、そして日曜は【のど自慢】や【新婚さんいらっしゃい】を見て過ごす。そんな感じで、どこの家でもある風景だろう。祖母も父も歌番組が好きだった。父が障害を持ち、母が亡くなってからは、祖母は婿養子の父を自分の子供のように接するようになってきた。

信心深さから、新たな神様誕生

祖母は信心深い人でした。近所の方も未だに祖母のことをそう言われる。朝は仏さんに、般若心経を上げ（ちゃんとできていたかは不明）、神棚、庭の地神さんを拝み、家族一同の健康をお祈りしていた。そして、家のそばにあるお地蔵さんには、誰に頼まれたわけでもなく、朝・夕のお参りを長年欠かさず続けていた。私も幼き頃、祖母に手をつながれ、よく一緒に行ったものだ。

ただロウソクや線香の火は怖い（何度か仏間の畳を焦がしていた）ので、その様子も伺いながら、祖母の一連の朝のお参りを観察していた時の事である。台所の神様へ感謝の挨拶をしたかと思ったら、続いて「レンジの神様こんにちは」と、電子レンジに向かって手を合わせ、拝みだしたのである。

思わず吹き出してしまった。日本には八百万の神々がいるというが、まさかの近代的神様だ。観察していると、色んな発見があるものである。

徘徊はなく、ちゃんと戻ってくる

朝のお参りを済ませ、洗濯物も干し終わり、テレビに退屈しだすと、「○○ちゃん家行ってくるわ」と近所の家にお邪魔し過ごす時間も多かった。

ただ【松井秀喜と松たか子の仲人話】は相変わらずしていたので、変わったことをしたり、迷惑をかけていないか、気になって近所の人に聞いてみたが、「大人しくしたはるで」と言ってくれていたので、安心してお任せしていた。（実際のところはいろいろあったのかもしれないが…）それに、数十分から、小一時間すると、ちゃんと家まで戻ってくるので、そこはこちらも気が休まり、つかの間の休息でもあった。

上品だった祖母が下ネタを!?

地域の高齢者サロンで、毎週木曜日に行われるグラウンドゴルフにも祖母はよく足を運んでいた。曜日を忘れても、家のすぐそばの運動場なので、人が集まりだすと、祖母はそれに気づき出かけていた。

そんなある日、高齢者サロンの一人から祖母が最近よく下品な話をすると聞くようになった。いわゆる下ネタだ。昔はテレビでキスシーンなどがあっても、黙ってチャンネルを変えるような家庭で、そんな話が祖母の口から出たとは信じられなかった。

お風呂も自分で入れるが…

祖母は、お風呂も自分で入れていた。といっても祖母はカラスの行水で、湯船に浸かってもすぐ上がるタイプだった。ただ問題は上がってからだ。認知症の症状が進むにつれ、裸のまま出てきたり、恥じらうことがなくなった。正直こちらはそんなものは見たくもない。注意すると、紙パンツだけは履いて出てくるようにはなったが（笑）

塗り絵の裏に卑猥な絵を

祖母はデイサービスにも通っていた。ヘルパーさんはお客さん扱いで長続きしなかったが、デイは楽しいようで、喜んで行ってくれていた。

ある日、祖母がデイから持ち帰ってきた塗り絵の裏面を見たときに驚いた。そこには、男性器のような絵が描かれていて、上から大きく罰点をつけられていたのである。最近デイの職員からも、卑猥な絵を描くようになったとは聞いてはいたが、それを見てショックを受けた。そういったこともあり、デイでも迷惑をかけていないか心配になった私は、仕事が休みの日に、デイでの様子を見学させてもらうことにした。

祖母には黙ってデイに行くと、突然顔を出した孫に祖母は一瞬、なんで来たんや？という顔を見せたが、私が『授業参観や』と言うと、その後はこちらを気にせず、普段通りの時間を過ごしていた。塗り絵を早々に塗り上げたと思ったら、やはり裏に卑猥な絵を描こうとしていた…

「昔取った杵柄」これはいけるかも?

デイには何度か足を運び、様子を見たが、その日は針と糸を手に【刺し子】をしていた。祖母は、昔から内職でミシン仕事をしていたので、針仕事は得意であったが、『まだこんなこと出来るんや』と驚きながら、針仕事に集中する昔と変わらない祖母の姿を見て、『これはいけるかも』とひらめいた。

祖母が使っていた内職部屋にはまだ業務用ミシンがあり、母も縫製の仕事をしていたので針と糸、はぎれなどは沢山残っていた。それを手渡すと、家でも針仕事に熱中するようになった。針に糸を通すのは僕の役目であったが、そのおかげか問題行動も減った気がして、手先を使うことで【脳トレ】にもなり、一石二鳥じゃないかと喜んだ。

こうして観察をすることで少しずつ祖母のことを知ることはできたが、認知症という病気は難しく悩みは尽きないのだった…